○議員（１８番　小川　廣康君）　済いません、１８番です。

○議長（作元　義文君）　失礼しました。１８番、小川廣康君。

○議員（１８番　小川　廣康君）　１８番、新生クラブ所属の小川廣康でございます。きょうあす、９名の議員が一般質問の質問台に立ちますが、新生クラブから４名の同僚議員が質問をいたします。そのトップバッターとして質問をさせていただきます。よろしくお願いをいたします。

いよいよ、慌ただしい年の瀬を迎えました。こんな中、昨日、衆議院議員の選挙が公示されました。市民の確かな判断で、安定した政権の枠組みが形成され、今、対馬市が提案しております「国境離島特別措置法」の制定に向け、早目に動き出してくれることを、ただただ私は願っております。そのことが今後の対馬の再生につながるものとかたく信じております。

さて、質問に入る前に一言お礼を申し上げます。

ことし１０月２０、２１日に開催されました第７回Ｂ級ご当地グルメの祭典！Ｂ―１グランプリｉｎ北九州で、見事シルバーグランプリを勝ちとられました対馬とんちゃん部隊と、また、１１月２３日、明治神宮会館で開催されました農林水産祭式典で対馬真珠養殖漁業協同組合の青年部が、見事天皇杯を受賞されました。この２団体の皆様に、心からお祝いとお礼を申し上げたいと思います。

対馬とんちゃん部隊においては、今後の我が対馬、そしてその地域おこしの手本として、対馬の交流人口拡大にさらなる活躍を期待をいたします。

なお、真珠養殖漁業協同組合青年部は、平成１０年結成以来、他産地の模範として養殖業の生産向上に大きく貢献されたことが、今回、評価されたものであります。水産部門では、昭和６０年度の厳原漁業協同組合青年部が受賞、そしてさらにシイタケ部門では、昭和６１年度に美津島町の吉野丈実氏に続く快挙であります。厳しい環境下ではありますが、今後さらに研さんを重ねられ、高品質真珠づくりに取り組まれることを期待をいたします。

さて、通告しておりました教育委員会の事務機構の見直しについてと畜産業の振興につきまして質問をさせていただきますので、市長、教育長におかれましては、明快なる答弁をお願いをいたします。

まず、第１点目の教育委員会の事務機構の見直しについてでありますが、対馬市の合併から９年を経過しようとしております。合併のために、各機関の本庁の所在地については分散方式を当時選択され、現在まで継続されています。この間、教育行政、特に学校教育環境も、学校の統廃合により変わってまいりました。教育委員会は本庁の比田勝に総務課、学校教育課、生涯学習課を、そして美津島町の雞知に文化財かを配置し、さらに三根に中地区教育事務所、厳原に南地区教育事務所を配置し、本庁総務課、学校教育課の出先機関として、その地区の幼稚園、学校等に関する事務をとり行っておられます。

特に学校教育課においては指導主事による幼稚園、学校教育に対する指導体制が図られておりますが、最南端の豆酘の学校まで走行距離で約９６キロメートルあります。効率的な行政運営のため、抜本的な見直しが必要と思いますが、教育委員会の所見を伺います。

なお、この件につきましては、昨日の市長の行政報告の中で、今年５月３１日にスタートいたしました対馬市組織機構見直し検討委員会で検討を進めてこられました、その対馬市組織計画素案が昨日示されました。今後、この素案に対し、議会及び市民の意見、提案を受けながら、庁舎内で協議検討を重ねて、最終的な計画書を策定するとの報告がありました。

その中で、教育委員会が三根に本庁を変更するという素案となっていましたので、先ほど申しましたいろんな諸条件から考えて、私の考えとするところと、ある程度同じであるということでございますが、教育委員会としての所見が伺えれば伺いたいと思います。

なお、前回の質問の再確認になりますが、学校図書館図書標準についての答弁で、蔵書冊数を小学校２６校で約９，８００冊、中学校１５校で６，６００冊、達成率もそれぞれ８０％、７６％と報告がありましたが、私が各中学校の学級数を基礎に標準冊数を積算してみますと、中学校１５学校で約８万６，０００冊が標準になると思われますが、ちょっと１桁違うのではないかと思いますが、間違いであれば、私は正式に訂正をお願いをしたいと思います。

また、この標準に近づけるために、どのような予算措置を考えておられるのかもお伺いをいたします。

なお、この件につきましても、昨日の一般会計補正予算の部門で、小学校費、中学校費で、それぞれ予算が計上されておりますが、このことについてもお考えをお伺いをしたいと思います。

次に、肉用牛の振興策についてでありますが、繁殖牛は現在５７戸の農家で４３０頭が飼育をされておりますが、年々飼育農家の高齢化が進み、増頭に転じないのが現状であります。対馬家畜市場が閉鎖して１年を経過し、現在では南阿蘇家畜市場に上場され取引が行われ、子牛価格も安定しております。対馬家畜市場の再開は厳しいものと思われますが、今後どのような方策で増頭を図り、農家経営の向上に取り組まれようと考えておるのか、市長にお伺いをいたします。

以上、大きく２点について質問いたしますので、答弁方よろしくお願いします。答弁の内容によりましては、また再質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○議長（作元　義文君）　教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野　正博君）　おはようございます。小川議員さんの御質問にお答えをいたします。

初めに、組織機構の見直しにつきましては、将来的に職員数の大幅な減少が見込まれるため、市の目指す将来像の実現に向けた組織機構を構築するため、外部委員さんを加えての対馬市組織機構見直し検討委員会において組織の見直しが行われまして、市長の行政報告の中でお知らせがありました。教育委員会の出先機関としましては、２カ所の教育事務所と５カ所の生涯学習セン

ターを配置し、所管区域内における行政サービスを行っております。

御質問の教育事務所の体制でございますが、迅速な対応を図ることにより課題の早期解決も可能であり、学校と教育事務所は近接した場所にあるほうが望ましいことは言うまでもございません。仮に、本庁に一元化してしまいますと、施設の破損等が生じた場合における現場確認等について、学校と教育委員会の距離、時間の問題、対応できる職員の数の問題等により、課題解決が先送りされるなどの懸念があります。

なお、素案を拝見しましたところ、教育委員会の本庁を市の中央部にとの素案でございます。私見としましては、市の中央部に本庁を配置したほうが、現状より効率の高い行政運営ができるのではないかと思料をしております。区域内の学校との連絡調整及び教職員とのコミュニケーションを図る上では、１本庁、２教育事務所の体制が望ましいと思料をしておりますが、初めに申しましたように、市の将来図を見据えた組織機構を大所高所から検討していただいた検討委員会の素案について、市民や議会の皆様方の御意見、御提案をいただき、今後、行政システム改革推進委員会で協議検討が加えられるとのことですので、最終的な組織計画案により、教育行政機構の見直しを図ることが必要との認識を持っているところでございます。

二つ目の学校図書の充実についてでございます。

今回、学校図書館をさらに充実させるため、学校図書館への新聞の一部配備、学校図書館担当職員――いわゆる学校司書ですが――の配置とともに、蔵書数の拡大を図っております。変化の激しいこれからの社会を担う子供たちには、基礎的、基本的な知識、技能を習得させるとともに、それらを活用してさまざまな課題に積極的に対応し、解決していける力を育成していくことが重要と考えます。このような生きる力を対馬の子供たちに育むため、学校図書館の充実を図ってきているところでございます。

前回の定例会で答弁しましたように、将来を担う子供たちへの教育環境の充実に向ける市長の熱い思いもあり、各学校から子供たちのニーズに応えるさまざまな読み物や教科等の学習で利用する図書資料、辞典など、学校で必要な図書全てが報告され、今回の補正予算で各学校の要望どおりの図書購入費を、小学校費で約１，２００万、中学校費で約４００万円を計上しているところでございます。今回の図書購入で、学校図書標準については小学校、中学校ともに９０％を超えて、ほぼ達成に近づいているという認識を持っております。今後も学校図書を計画的、体系的に整備を行っていくことで、各学校図書館においての機能充実を図っていく所存でございます。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　１８番議員の小川議員さんの質問に答えさせていただきます。

３点目の牛の問題でございます。５７戸４３２頭という、先ほどお話がございました。現時点において、そこまで落ち込んでいる頭数。この頭数が、私ども、繁殖牛としての数値としまして

は、実際は３００頭程度しかいないんではないかと実際感じておるところであります。

そういう中、昨年休止を決定をしましたこの家畜市場でございますが、農協の合併によりまして、昭和４９年まで、それまで各地域で移動開催されていたこの市を雞知に集荷し、そして対馬家畜市場として開設をされました。当時、１回の家畜市で３００頭を超える出荷があり、盛況で、この肉用牛は地域農業振興の上で大変重要な役割を果たしてきておりました。

近年、飼養頭数の減少により市場出荷頭数も激減し、１回の家畜市で５０頭を切るような状況になり、あわせて購買者の確保ができず、特定の業者による競り取引が行われ、類を見ない価格の下落に陥ったため、島外購買者の輸送経費補助や人工授精に要する経費補助制度を構築をして、関係機関ともに購買者の誘致努力をしてまいりましたが効果が上がりませんでした。このため、農家と関係機関との３者協議の上、対馬家畜市場を休止し、南阿蘇家畜市場への出荷が決定されたところであります。昨年１０月以降、南阿蘇家畜市場へは１６７頭を出荷し、キロ単価１，０００円を超える安定した取引が行われ、本年１０月の家畜市では３３頭が出荷され、平均キロ単価は1，３１７円、３６万円超えの平均価格となっております。

また、近年、対馬でも高値取引が行われている黒牛が飼育されるようになりました。壱岐家畜市場へ出荷されており、安定した取引が行われております。

議員さん御存じのように、農業の基本は土づくりであります。農地に堆肥を供給し、農産物の生産性と品質を高め、そして農業所得向上に寄与するこの肉用牛の振興は最重要施策と位置づけております。

対馬家畜市場の休止を受け、肉用牛振興施策を大きく見直し、本市では「みんなで牛をふやそうやプラン」を策定し、繁殖牛の倍増を目指しております。そのため、まず家畜市場出荷、導入輸送経費に対する助成、素牛導入の上乗せ助成、牛舎の新築や増築に対する助成、さらには飼料購入に対する助成、放牧に対する助成や人工授精に対する助成等を行い、１頭当たりの飼養経費の軽減、あわせて県の補助を活用し機械化を推進することで作業労力の軽減を図り、１戸当たりの飼養頭数の増頭を図っております。

また、新規参入者に対しましては素牛の導入、牛舎の新築等に対し、さらなる上乗せ助成を行うこととしております。

今後も肉用牛振興に対し、県や農協、生産者と十分な協議を行い、指導や助言、助成策を講じてまいりたいと考えております。

○議長（作元　義文君）　１８番、小川廣康君。

○議員（１８番　小川　廣康君）　ありがとうございます。

教育委員会のほうから、ちょっと確認をしておきたいと思いますが。私、先ほど言いましたように、前回の一般質問の教育長の回答の中で数字が違ってたと私は思いますが、その点は訂正は

されなくてもよろしいんですか。

○議長（作元　義文君）　教育長、梅野正博君。

○教育長（梅野　正博君）　御指摘のとおりであると思います。２３年度末の蔵書数、それと標準が小学校では９万８，０００、それから中学校で約６万６，０００が２３年度末の数字でありまして、私が１桁間違えていたと思います。訂正をさせてください。

○議長（作元　義文君）　１８番、小川廣康君。

○議員（１８番　小川　廣康君）　わかりました。私も前回の答弁を受けて、いろいろ後を振り返ってみまして、ちょっと１桁違うんじゃないかなと思っておりましたので。ましてや議会での答弁ですので、やはり本会議で訂正方をお願いしたかったから、ちょっと今確認をしただけでございます。

まず、教育委員会のほう、教育長にお尋ねしますが、先ほど私も申しましたように、前回の私のこの学校図書に対する質問において、いわゆる学校司書、そして新聞の配置については検討されるということでしたし、蔵書標準の達成のためには、先ほど言いましたように今回の一般会計の補正で小・中、合わせて１，６００万の補正が組まれていることが予算書の中で見受けられました。私は、このことは、やはり財政当局の深い御理解のもとに学校教育現場の充実に向けての取り組み方、そして子供たちへの教育に対する考え方がこの数字としてあらわれてきたものと、私は市長部局を高く評価をしたいと思いますし、教育委員会の努力にも感謝を申し上げたいと思います。

しかし、今後は、やはり計画的に、標準率の達成のためには、前回も私は申し上げましたように、古い本が処分できない状況が過去にあったと思いますので、これは学校現場とよく連携をとられながら、一度にこういう予算を組むんじゃなくて、やっぱり計画的に学校図書館の担当教諭、あるいは校長先生方と協議をしていきながら、年次的に私はしていくべきだと思います。

前回も私言いましたように、この小学校６年生の時代は１回しかございませんし、中学校３年生の時代は後にはもう戻ってきませんので、やはり年次的な計画のもとに、毎年、当初予算の中で組んでいくことが、私は妥当なやり方じゃないかなと思います。

今回の措置については高く評価をいたしておりますし、学校現場においても満額、予算確保できたということで、今後、子供たちの教育に大いに役立つものと考えておりますので、この点はよろしくお願いをいたしたいと思います。一応、教育委員会のほうについては、以上です。

そして、先ほど機構改革の問題ですが、これはまだ全体的な見直しの中で、最終的には議会等との承認を求めながら進んでいくものと思われますので、この件については、また様子を伺って、見守っていきたいと思います。

次に、特に畜産振興の件について、今から触れたいと思います。

先ほど、いろいろ市長のほうから答弁がありました。私も現状は、自分なりには、よく把握をしているつもりでございます。私も過去、この畜産業を中心とした農業振興に携わった者として、なかなか強く言えない部分もありますけど、現状を踏まえながら、私の当時の状況と今は大きく農業環境も変わってきております。私も、この質問する前段で過去のいろんな思い出、あるいはその当時の私の職場の資料をひもといてまいりました。さっき市長も言われましたように、当時、昭和６２年、６３年ごろ、今の焼松の家畜市場で年３回の家畜市が盛会に開催されておりました。朝１０時から市場が開会され、夕方３時、遅くなると４時ぐらいまでかかっておりました。ピーク時には三百七、八十頭ぐらいの上場頭数があったと記憶いたしております。

それから、この肉用牛を取り巻く環境がいろいろ変わってまいりました。自由化の問題、いろいろありましたし、特に対馬におきましては、高齢化、後継者不足による畜産離れが急速に進展をしてまいりました。そのことは対馬だけの問題ではございませんし、全国的に言えることだろうと思います。過去、今まで特に対馬の肉用牛を支えてきたのは、農家による二、三頭飼い、これが中心でありました。しかし、今は中規模といいますか、１０頭、２０頭飼いから、あるいは３０頭、４０頭飼育農家が今だんだんと、農協さん、そして市当局、あるいは県のいろんな補助事業の中で取り組まれております。

私が今回申し上げたかったのは、特に今、阿蘇の家畜市場で上場されておりますが、私もここ１年間、数字を見ていまして、非常に安定をしております、価格的にはですね。全国的な肉用牛の子牛価格の変動はもちろんありますけど、全国に倣って変動している分は、私はそれはやむを得ないと思います。ですから、今後、頭数を拡大して、またその対馬家畜市場を再開することには、私はある程度の疑問を感じます。なぜかといいますと、やはり多くの家畜商、バイヤーのもとで正当な評価を受けて取引していくことが、畜産農家の安心感といいますか、納得感といいますか、それが得られると私は思っております。

ですから、今、市当局も家畜市場に搬入される経費等々について手厚い援助を施していただいておりますが、これが聞くところによりますと、２３年から２５年までの３カ年計画を目途にされておりますが、今後、対馬家畜市場が再開されるまでには相当な時間がかかると思いますが、まずこれ、今後も２５年度、２６年度以降も継続されていこうとしているのか。まず、その考え方をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　３カ年で助成は終わるのかというふうな御質問でございますが、この助成につきましては、ある意味２つの方向性を担っております。

対馬家畜市場が再開できるようにすることが、昨年閉鎖したときの、休止したときの大きな目標でございました。再開に向けてどうするかということで、まず南阿蘇に運ぶ、これについて当

然助成は出していこうというふうな決断をさせていただきました。再開をするためには、少なくとも今までの形でいきますと、市を年３回開催をしておったわけですが、この年間の３回に対する出荷頭数が、やはり最低でも５０頭から１００頭、１００頭にはいかないといかんのじゃないかというふうな思いがあります。で、１回当たり１００頭を確保するためには、繁殖牛、親牛を５００頭はいないといけない。で、受胎率が現時点において６０％ぐらいで推移しておりますけども、６０％でいきますと、年一産きちんとできればいいんですが、なかなかそうはいかないもんですから、６０％で低位で推移をしております。この３００頭、５００掛け６０％の３００頭でございます。３００頭で、年３回ある分を１回当たりで割り戻しますと１００頭、このような目標数値をクリアしないと再開できないんではないかなというふうに思っております。

で、先ほどの答弁でもお答えさせていただきましたが、バイヤーが特定されますと価格が下落していく傾向があります。で、バイヤーがこちらに来てもらうためにも、多くの頭数が要るということになりますので、極力この３年の間に５００頭以上になるように、私ども市も、生産者も頑張っていただかなくてはいけないと思ってます。

で、１００頭以上並びにバイヤーが仮に５名以上とかいう数字が確保できると、１回当たり、という見通しが立ったときに再開なのではないかと思っておりますし、そうなりますと当然、南阿蘇への輸送の補助っていうのは、現実的には打ち切るというふうなことになろうかと思っております。それらとの絡みがあるというふうに認識をしていただければと思います。

○議長（作元　義文君）　１８番、小川廣康君。

○議員（１８番　小川　廣康君）　気持ちは、よくわかりました。

対馬家畜市場の再開については、まだまだ厳しい道のりが続くものと、私は予想しております。再開されましても、年３回ですから４カ月に１回の上場になるかと思いますが、今、南阿蘇では偶数月ですから年６回の家畜市場が開催されておりますが、年６回出荷するというチャンスが与えられたときには、やはり農家の換金といいますか、経済的にも、私はそのほうがいいんじゃないかなと個人的には思います。それは農協さんの気持ちはわかりませんけど、私はそういう意味じゃ、今、正当なと言ったらおかしいですが、妥当な評価のもとに取引されている現状、これを持続していきながら増頭が図られればなと考えておりますので、よろしくその件は、またお願いをしておきたいと思います。

それからもう一つですが、今、長崎県も長崎肉用牛振興計画の対馬版、対馬地域肉用牛振興方針を出されております。これは前段の肉用牛振興ビジョン２１の後続になるわけですが、この中で対馬のいろんな、飼育頭数の減少、そして増頭に向けての、まずネックは粗飼料の確保といいますか、これがやはり重要な課題だろうと私は考えております。

先ほど市長も言われましたけど、受胎率を上げるのももちろん必要です。しかし、これは今、

多頭化している農家、２０頭、３０頭飼いの農家の繁殖率を引き上げることによって、全体の受胎率が、私は上がってくると思っております。２、３頭飼いの農家については、受胎率というのはかなり、７割、８割はいってるものと思っております。ですから、多頭飼育の農家が、やはりその繁殖牛の観察といいますか、発情が来ているときの観察、あるいは栄養的なものもあるんじゃないかなと私は考えております。特に１、２頭飼いの農家は高齢者農家が多いわけでございます。そして多頭化の農家につきましても、その粗飼料をいかに確保するかということが非常に今難しい、一つのやっぱりネックだろうと思っております。ですから、今、乾草、干し草も農協さんのほうで売られてるのが、あれは１トン４万ちょっと、今するんでしょうかね、金額は定かじゃないですが。そういうものを買ってでも、つなぎとして買わなきゃいけないというのが現状でございます。

そういうことで、今から――あと１０分、１５分残っておりますが――私はその畜産振興に関連しまして、前回も言いましたように対馬市農業振興公社のあり方、やはり振興公社の力なくして、この畜産振興は図れないものと私は思っております。

そこで、前回、私はこう言いました。今、振興公社が対馬地域の農家の農地を借り受けて受託し、そしてソバ、干し草乾草、特にイタリアンライグラスを受託栽培をしております。前回も言いましたように人的要素、そしてハード的な機械装置の不備不足等により、播種したものが適期に刈り取られなくて、干し草乾草としての生産ができていないことを私は指摘したつもりでございます。

市長、副市長、総務部長、政策監、そして比田勝部長、そして峰の活性化センター部長、これは部長は振興公社の理事長ですので、そこに写真を、私はお手元に配付をしておりますが、それを見ていただきたいと思います。これが現実です。

これは１１月の２日に私が、美津島町の基盤整備をされている農地に、振興公社が農地を借り受けて受託栽培をしております。当初言いましたように、前の作物はイタリアンライグラスでございます。そして、それが収穫適期を迎えても、収穫を、刈り取り、乾燥することができない。そして、畑の中でイタリアンライグラスが枯れてしまった。やむなく、それをすき込んでしまう。ですから、おのずとその果実、種というのが圃場の中に残っている。その上に、またトラクターで耕し、ソバの種をまいた。見てください。その黄色いのがソバです。比田勝部長、そして志田部長、黄色いのが、これは圃場は別ですけど、上と下、見てください。黄色いのがソバ、緑色のがイタリアンライグラスです。私は、こういう圃場は今まで見たことはございません。下のほうに私のたばこ、大好きなマイルドセブンが置いてありますが、たばこは８．５センチですね、高さが。草丈といいますか、丈が何センチあったんですかね。はかったんですが、２０センチぐらいしかなかったと思います。

そして、気になりましたから、私は先日行きましたけど、確かにソバはコンバインで刈り取られた形跡はありました。その後にイタリアンライグラスが、もうかなり伸びておりました。前回行ってみますと、またそれをトラクターですき耕しておりまして、私は今イタリアンライグラスにちょっと追肥でもやったら、イタリアンライグラスというのは大体１０月中旬から下旬に播種するものですから、それに追肥をやれば、また今度はいい飼料が出るのかなと私は思っておりましたけど、またそれをトラクターで耕しておりました。これが、近くの農家が見たときにどう思うでしょうか。やはり私は、もともと作物を生産する意欲が、果たしてそこにあるのかなというものを感じました。

ですから、今回２４年度の予算についても、比田勝部長、補助事業で２４年度のこの予算で、トラクター、ディスクモア、ジャイロレーキ、ロールベーラーを購入され、これは佐護地区の特に振興公社に委託して、米の青刈りですか、飼料用の、これをする機械だそうでございますが、振興公社にこの機械を委託し、耕作、粗飼料として加工するということですが、果たして、今のオペレーターといいますか、その人たちで果たして十分機能できるのかなと私は心配しております。ですから、前回も私は申し上げました。緊急雇用対策でも何でも利用して、２名、３名のオペレーター、昨年まではオペレーターがいました。３名かそこらですね。それが、緊急雇用対策が変わったということで、その人たちは解雇になって、今ほかの仕事についておられますが。この件について比田勝部長、特に農林振興、そして畜産振興の観点と振興公社との連携といいますか、どのような連携がされておるのか、それをちょっと私は確認を、残った時間でしてみたいと思いますが。比田勝部長に振ってもらって結構です。市長。

○議長（作元　義文君）　市長、財部能成君。

○市長（財部　能成君）　小川議員の言葉に甘えるわけいきませんので、まずもって自分でできる範囲はきちんとやりたいと思いますが。イタリアンライグラスが、このような形でソバと同じように圃場で出てくるということ、これも問題であります。それ以上に、公社が本来担うのはどこなのかということ、そして畜産農家との方向、畜産増頭に向けての方向性に、公社がどうかかわり合うのかとかいうところをきちんと再確認しないといけないなと、今、お話を聞いて改めて感じております。

で、先ほどからおっしゃってあります人、そして設備がうまく動く組織というものをきちんとつくり上げていきたいと思っておりますが、あとの部分につきましては言葉に甘えて農林水産部長に振りたいと思っております。よろしくお願いします。

○議長（作元　義文君）　農林水産部長、比田勝尚喜君。

○農林水産部長（比田勝尚喜君）　まず、第１点目に農業振興公社と農林水産部との連携をいかに考えているかということでございますけども、小川議員おっしゃられるように、対馬の農業は耕

地面積こそ少ない産業でございますけども、生活に密着した産業ということで、市といたしましても基幹産業の重要な部分と捉えております。そういうことで公社のほうにつきましても密な連携はとっているつもりでございます。

確かに、おっしゃられるように、このイタリアンライグラスあたりが、本来なら刈り取られて畜産の牛の餌にすべきでございますけども、作業員の関係だったのか、すき込まれたということは私のほうも聞いております。今後このようなことがないように、再度、振興公社のほうとも協議をしながら、このようなことがないように努めていきたいというふうに考えております。

○議長（作元　義文君）　１８番、小川廣康君。

○議員（１８番　小川　廣康君）　お願いしますね、くれぐれも。

農家とか地域の人が見るんですよ、こういう作業工程とか、そういうものを。個人農家がやられる分には、それはもう勝手ですが、やはり公の機関といいますか、そういう団体がやられますと非常に胸が痛みます、私は。ですから、こういう基盤整備された水田に飼料作、あるいはソバ等作付されますと奨励金が出てますね。ですから、悪い言い方かもわかりませんが、そのために仕方なくと言ったらおかしいですがね、播種してるというふうにとられても仕方がない現状です。

ですから、この点については、やはり私は農業振興公社の見直しといいますか、それもやっぱり早急に取り組んでいただきたい。それと畜産振興とをかみ合わしていけば、こういう遊休農地が今どんどんふえてる中で、遊休農地の解消にも、私はつながるんじゃないかなと。今回も２４年度の当初予算でいろんな牧草、乾草をつくる機械を入れております。それは結構です。

ですから、この機械等を有効に活用して、粗飼料を確保して、そして今農協さんが売ってる、農協さんには悪いですけど、１トン当たり４万幾らも出して、多頭農家に買わせるんじゃなくて、ある程度採算ベースに合った値段で農家に還元する、それが私は公の振興公社の役目だろうと思っておりますので、これは志田理事長、特に理事長のほうにも部長のほうにもお願いをしておきたいと思います。

そして、ことしは天候の関係で、そばも不作と聞いております。今振興公社も美津島だけでも、前回言いましたように１０ヘクタールぐらいの作付の受託を受けてたと聞いておりますが、こういう状態です。

ですから、私は、もっと時間があれば部長のほうに、今年度そばの収穫も終わりましたので、どれだけの面積を受託耕作し、今年度どれだけの収穫量があったのかということをお聞きしたかったんですが、もう時間がございません。それは突っ込まないようにしますが、できたら後日でも振興公社の内容について、牧草を農家からどれだけの面積を受託し、そして牧草をどれだけつくって、ロールベーラーがありますから、大体１巻きが何キロかとわかると思いますので、おおよそで結構ですが、それがどのくらい生産された、そしてそばが何十ヘクタール受託栽培して、

何トン収穫があったという数字をできたら教えていただきたいと思います。それは後日でも結構です。時間がございません。

いろいろ申し上げました。今国もまた大きく変わろうとしております。やはり私たち対馬の経済も非常に冷え込んでおりますが、畜産部門は微々たるものかもわかりませんが、今後力を入れていただきたいと思います。誰の言葉か忘れましたけど、今を楽しみたければ花を見よ、そして１年後を楽しみたければ種をまけ、そしてさらに１００年はあんまりですが、２０年、３０年後を楽しみたければ人を育てよという言葉を聞いたことがございます。本当に教育は人づくりの基本でありますし、さらなる御尽力のお願いをしておきたいと思います。

そして、最後になりましたが、教育委員会においては、今年の１月１５日、特にといいますか、知的障害者で組織する瑞宝太鼓の公演の開催をしていただきました。立ち見の中で、ああいう多くの観衆に勇気と感動を与えてくれたものと私は感じております。彼らは障害を個性として捉えて、プロとして平成１３年から日本各地、あるいは今年はアメリカ公演まで実施されているプロの集団です。今年２月に第二弾として比田勝公演を実施していただくことが教育委員会で決定されたそうでございます。どうか今後学校教育、あるいは生涯学習も含めた教育行政に取り組んでいただきますようにお願いをしておきたいと思います。

ちょうど時間となりました。ありがとうございます。

○議長（作元　義文君）　これで１８番、小川廣康君の質問は終わりました。

○議長（作元　義文君）　暫時休憩します。開会を１１時から行います。

午前10時51分休憩

午前11時01分再開

○議長（作元　義文君）　再開します。

次に、１０番、堀江政武君。

○議員（１０番　堀江　政武君）　おはようございます。新生クラブの堀江政武です。よろしくお願いをいたします。さきに通告をしておりました３点につき質問をいたします。

１点目の尾浦地区から安神地区クリーンセンターに通じるトンネルの建設についてでありますが、市長は以前から、このトンネルの建設について前向きに取り組む発言をされておりましたが、その時期ははっきりしておりません。建設を考えてあるのであれば、いつごろの予定をされているのかお尋ねしますという質問の通告をしておりましたが、先日の補正予算（第５号）で、この道路の測量、設計委託料が組まれており、この道路、トンネルの建設を始めていただけることがわかり、大変ありがたく思いますし、またこの地域の方々も大変喜ばれることと思います。